

田代 FS 第 1 回フィールド巡検・勉強会

テーマ：濃尾平野の輪中集落に培われた共同体の実態

田代 喬（東海国立大学機構名古屋大学減災連携研究センター・特任教授）

輪中集落に培われた共同体の実態について調査するため、濃尾平野西縁地域に残る「十六輪中」（大垣市十六町）を対象に、第1回フィールド巡検・勉強会を大垣市内で実施した。

大垣市輪中館・輪中生活館を訪ね、濃尾平野の地形の特徴、輪中成立の歴史や輪中地域の生活に関する展示を見学した後、十六輪中を巡検して地域の方々から水防と水利用の実態について説明を受けた。その後の勉強会では、十六輪中に関する調査研究「輪中における水制御と水の神性ー水共同体のエートスー」を聴講したうえで、共同研究の打合せを行った。巡検のガイド、勉強会の講師は、山口英津子博士（文学、岐阜高専）をお願いした。

集落内外の交通のために一部が切り下げられていながら、洪水時には浸水を防ぐための水防活動によって締切る輪中堤防の「切割」、隣接する遊水地に洪水流を導き入れるための「洗堰」のほか、弘法大師が見出した逸話とともに今に伝わる「弘法の井戸」など、集落に残る複数の水源を含む地域の歴史を今に伝える各種の史跡を見学した。輪中集落に伝承された、洪水への備えとしての水防と複数の水源を使い分けてきた水利用に関する「水共同体」の実態を知り、集落における協働の枠組みの存続に大きな役割を果たしてきた各種の祭礼などの地域の催事とともに、水害に対峙する中で重ねてきた周辺地域との相克と調和の歴史を学んだ。さらに、近年、上流のダム建設、下流河道の掘削などのインフラ整備によって水害リスクが減じられてきた中で、共同体の拘束力が弱まりつつある現状についても気付きを得るなど、有用な情報収集の機会となった。ガイド・講師を務めてくださった山口先生、輪中館の片桐館長、十六輪中を案内下さった地域の皆さまに感謝申し上げる。



大谷川洗堰



十六輪中に残る弘法の井戸